

大規模災害対策委員会～大規模災害に備える安全安心な二藤作り～

※世帯数及び人口は令和3年4月1日現在

南区	小学校区・地区名	第二藤田学区	世帯数	2,986世帯	人口	6,682人
----	----------	--------	-----	---------	----	--------

■組織の概要

岡山市南区の干拓地である藤田地域は海拔0メートル地帯であり、緊急に避難できる高い建物もほとんど無い農村地域である。30年以内に70～80%の確率で起こるとされている南海トラフを震源とする巨大地震が発生すれば、浸水・液状化・津波などによる甚大な被害が想定される。

第二藤田学区安全・安心ネットワークでは、平成29年5月12日に、大規模災害対策委員会を設立した。自主防災組織の拡大や学習・訓練を通して、大規模災害に対応できる体制と備蓄の整備をすすめる、安全安心の地域作りを目指す。

■活動の取組内容と効果

大規模災害対策委員会では、①研修(学習)②学区での防災訓練③「ふじた桃太郎どんぶらこまつり」や「どんぶらこの里ウォーキングと炊き出し訓練」等の行事でも各種防災訓練を実施している。

初年度は地域の意識調査を行うため、返信はがき付きの全戸配布チラシを作り、学区民の意識調査を行うとともに、区づくり推進事業助成制度を活用し、必要な消耗品(1品3万円以下)や、500食の非常食等を購入した。

また、岡山理科大学の西村敬一先生による南海トラフを震源とした地震についての学習と、炊き出し、消防団に



【西村先生による防災学習会】

よる簡易担架作り、水消火器を使った演習、NTTによる171災害用伝言ダイヤル体験、協立病院の担当者によるAED操作説明、水道局の給水車による給水と小学校の非常用水タンクの説明、連合町内会による簡易浄水器やドライシャンプー体験など多様な訓練を行った。

2・3年目は、災害図上訓練(DIG)や避難所運営ゲーム(HUG)などの訓練と神戸や淡路島の震災記念

館を訪問し、「語り部」の方から体験談を学んだ。

その後は、平成30年7月の、東区平島地区の水害

について、元平島連合町内会長と避難者を受け入れた御休学区連合町内会長の話を聞くとともに、第二藤田学区における災害についての学習を行った。

この2年間は、新型コロナ感染拡大の中で講演会を中止せざるを得なくなったが、実地訓練に重点を置き、第二藤田小学校体育館を使って感染症対策を

施した避難所運営訓練を行った。また「どんぶらこの里ウォーキングと炊き出し・防災訓練」では、屋外における感染対策や、水を極力使わない炊き出しのやり方など実践的な訓練を取り入れ、昨年9月に

は公園での避難場所開設訓練を行った。

こうした取り組みを通じて、災害についての備えや備蓄の必要性の認識が、学区全体で高まっている。

■活動の成果(課題)

今後、避難所での生活体験を行う予定である。

また、巨大地震が来れば、児島湖の堤防決壊による浸水が想定される。農業振興地域には、歩いてすぐ避難できる緊急避難場所がほとんど無い。感染症対策で避難所の定員減の中、行政とも連携し、避難所の拡大と緊急避難場所の新增設を図りたい。このことは先延ばしできないものである。



【避難所運営ゲーム(HUG)】



【感染症対策を施した避難所開設訓練】



【ウォーキングと炊き出し・防災訓練】